



DATE. 2009.10.29

■■ 様へ

◎◎ちゃんの検査結果ご報告

◎ ◎ちゃんの検査結果について、ご報告させていただきます。

検査で認められた異常な点および問題点

1. フィラリア寄生から起こった三尖弁閉鎖不全・肺動脈弁閉鎖不全→右心不全と肺に血管・混合パターン
2. 右心不全から起こったうっ血肝と変性漏出性腹水
3. 右胸部に存在する皮膚 mass → FNA からは脂肪腫を疑う
4. 左大腿部に皮膚病変

コメント

腹部膨満で咳をしているとのことで、精密検査を行ないました。問題点としては、1.2のようにそのほとんどの問題がフィラリアに起因しているものであることが確認されました。まず、心臓ですが、今の段階では、フィラリア虫体は、心臓内には存在しません。つまり、ベナケバ症候群を生じているわけではないため、緊急手術は不要でしょう。虫体により心臓の弁膜が変性しており、そのために、臨床症状が発現しています。この治療としては、1. ACEI (エナラプリルやベナゼプリル) 2. ジキタリス 3. 利尿剤 (フロセミドなど) 4. 気管支拡張剤 (テオフィリンなど) を用いて治療します。また、肺動脈への炎症や臨床症状の緩和のためにステロイドを併用することも一般的です。その他にも、症状によっては追加の治療が必要な場合もあります。また、これ以上のフィラリアが寄生しないように、予防薬を飲ませることも良いでしょう。今の症状とは無関係ですが、さらなる肺病変の進行を防止し、血栓症のリスクを下げるために、状態が安定したら、フィラリアの成虫駆虫も長期的な予後を改善する可能性があります。

3の皮膚 Mass ですが、FNAの結果からは脂肪腫を疑います。サイズがこのままであれば経過を観察するのみで良いでしょう。

.....

京都中央動物病院

獣医師 渡邊 高司 (ワタナベ タカシ)

.....